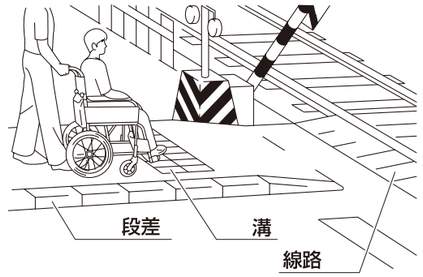
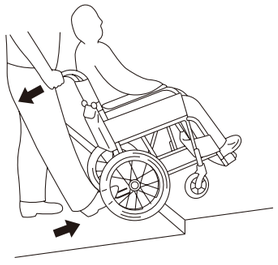
走行上のご注意

・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
・溝や踏切の線路による落輪、キャスタの挟み込みには充分注意してください。
・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



段の上がりかた

1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。

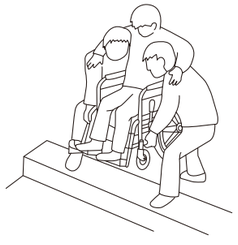


2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、レッグパイプ、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにしてください。



段の下りかた

押し手とティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。
＊無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
＊段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

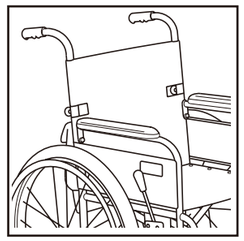
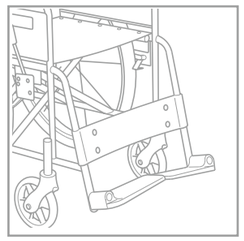
車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

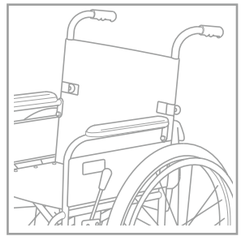
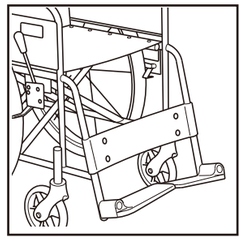
製造元
Wheel Chair MiKi
株式会社 ミ キ
〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

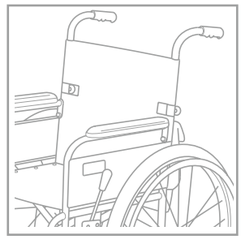
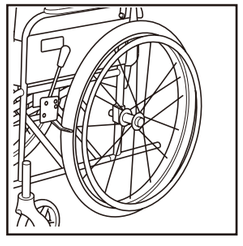
1901-005

車いす 取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の状態、環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目　次

安全上のご注意 …… 2
各部のなまえ …… 3
使いかた …… 4
　開きかた/たたみかた …… 4
　乗り降りのしかた …… 5
各部の調節のしかた …… 6
　フットサポートの高さ調節 …… 6
使用上のご注意 …… 7
　保守・点検 …… 7
　走行上のご注意 …… 8
　段の上がりかた …… 8
　段の下りかた …… 8

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠ 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

🚫 禁止の行為であることを告げるものです。

❗ 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

🚫 **スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 **エスカーレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。**
転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

❗ **急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、介助用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。**

❗ **自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。**

❗ **車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

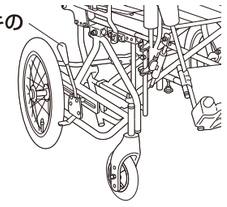
🚫 **乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⚠警告

❗ **乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

🚫 **乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。**
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

駐車用ブレーキのレバー



❗ **各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。**
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。**
けがをする恐れがあります。

🚫 **車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。**
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 **手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。**
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠注意

🚫 **この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。**

❗ **フレームに最大体重（積載物も含む）が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。**

🚫 **車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。**
手をはさみ危険です。

❗ **走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。**

🚫 **走行中、身体を乗り出さないでください。**
走行の安全を損ない危険です。

❗ **操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 **フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。**
けがをする恐れがあります。

🚫 **フットサポートの下には足を入れないでください。**
足を地面でこすったり、フットサポートや前輪キャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

🚫 **折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。**
手をはさみ危険です。

❗ **使用する前に駆動輪（主輪）・キャスタ車輪・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。**

❗ **フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。**

❗ **段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

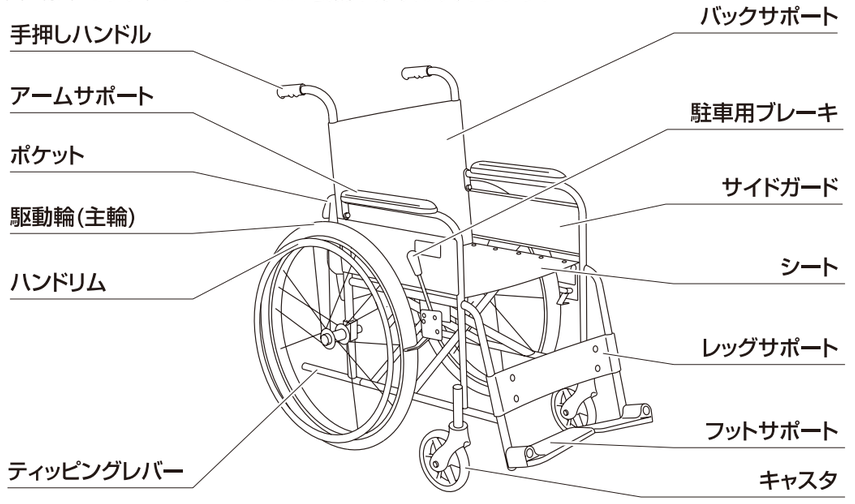
❗ **車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。**
車いすの破損や故障の原因となります。

🚫 **シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。**
製品を傷める恐れがあります。

🚫 **暖房器具にタイヤを近づけないでください。**
タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。（エアータイヤの場合）

各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。



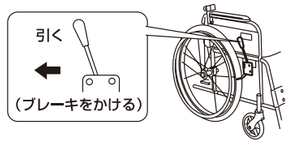
使いかた

ブレーキのかけかた

⚠警告	・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



開きかた/たたみかた

⚠注意	・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。（ジョイント有の場合）

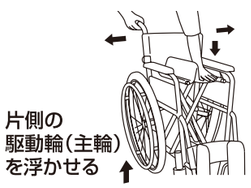
● 開きかた

1 手押しハンドルを両側とも上げます。（ジョイント有の場合）
＊開口部に手や指を近づけないでください。

2 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

3 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。

4 駆動輪（主輪）を浮かせていない側のシートの表面を、手の平で押して開きます。
＊シートパイプを握らないでください。



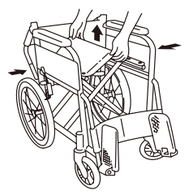
● たたみかた

1 車いすの駐車用ブレーキを両輪にかけておきます。

2 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。（ジョイント有の場合）

3 フットサポートを両側とも上げます。

4 シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



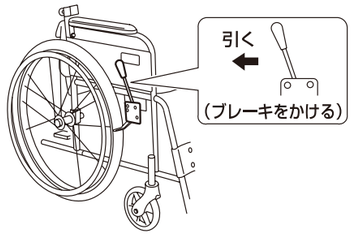
5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、シートを折りたたみます。

乗り降りのしかた

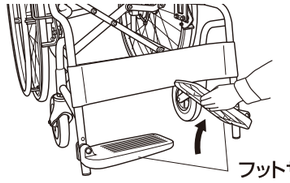
⚠警告	・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。 ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。 ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

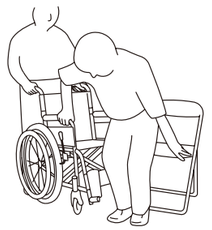
1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



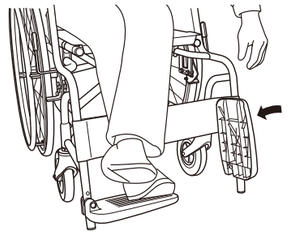
2 フットサポートを両側とも上げます。
＊フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
＊上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。



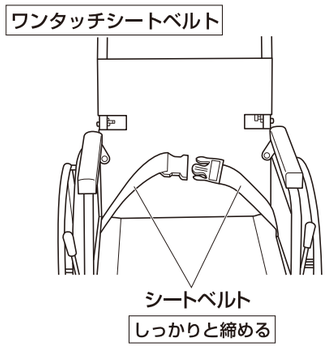
3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

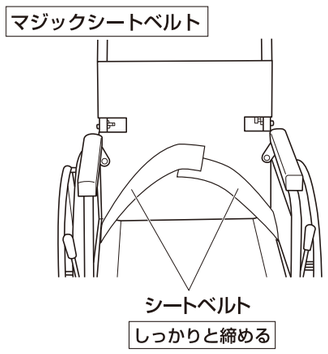


4 フットサポート　を降ろして両足を乗せます。



5 シートベルト（オプション）を締めます。
＊体格に合わせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。





● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

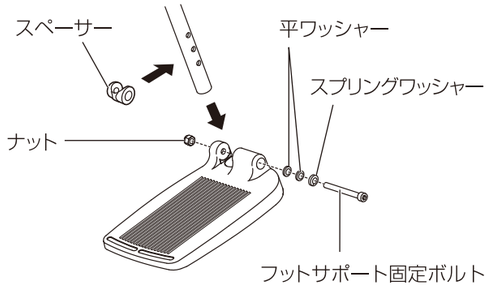
各部の調節のしかた

軽量フットサポート

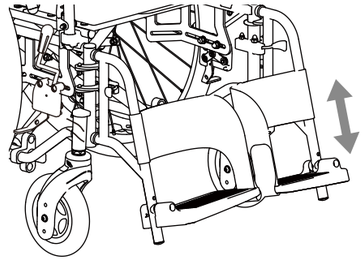
フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。
使用する工具：M5六角レンチ

1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

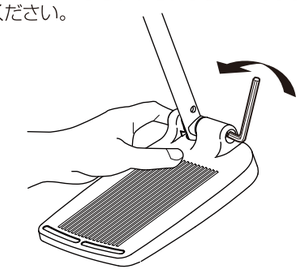
＊反対側も同様に調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。

＊ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。



2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

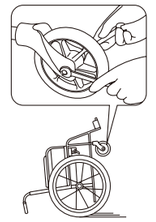
- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

使用上のご注意

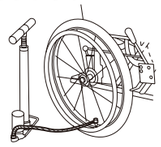
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
＊ 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告	キャスタ、駆動輪（主輪）、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。
（タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。）
（エアータイヤの場合）



・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。（エアータイヤの場合）それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
（地上より50mm以上あげてください。）

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交 換 時 期
主輪・駆動輪タイヤ	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ車輪	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。

また、車いすのフレームの耐用年数は5年を基本として製作されています。5年経過後使用される場合は、必ずお買上げの販売店または弊社へご相談ください。

● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、手押しハンドル等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

・収納スペースが少ないときは、シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

⚠注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。